

総合歯科医学6 (障害者歯科学)

■授業日程

回数	担当教員	大項目	中項目	小項目	学習目標	準備学習
障害者 歯科 1	關田俊介	必修の基本的事項 2 社会と歯科医療	ア 患者・障がい者 のもつ心理社会的 問題と背景	a 疾病・障害の概念・ 構造 (社会的関わり) b リハビリテーション の理念 c ノーマライゼーション の理念 d 国際生活機能分類 (ICF) e 健康格差、健康の社会的 決定要因	1 障害者と健常者の共生 社会の必要性を説明 できる 2 ノーマライゼーション を説明できる 3 社会的障壁を説明で きる 4 バリアフリーを説明 できる 5 チーム医療を説明で きる 6 ICFを理解し説明で きる 7 ICIDHを理解し説明 できる 8 障害者歯科医療には 多職種連携の必要性 を説明できる	予習：あらかじめ 各項目について自 習しておくこと 復習：講義プリン トを参照して確認 し、理解を深める こと A-5-1)①②③ B-2-2)③⑤⑦⑧
		11 治療の基・基本 手技	ウ チーム医療	a チーム医療の意義 (多職種連携、医科 歯科連携、病診連携 を含む) b 医療チームの構成員 と役割 c チーム医療における 歯科の役割 (かかり つけ歯科医、在宅医 療、歯科訪問診療) d 情報提供		
		総論 I 1 健康の保持・増 進と社会保障	イ 小児・高齢者・ 妊産婦・障害 者・要介護者の 治療	a 治療環境 b 患者の体位 c コミュニケーション		
			ア 健康・疾病・障 害の概念	d ノーマライゼー ション バリアフリー		
			エ 保健・医療・福 祉・介護の法規 と仕組み	i 医療連携・チーム医 療とその関係職種		
障害者 歯科 2	關田俊介	総論 I 保健・医療と健康 増進	カ 障害児・障害者 の保健・福祉	a 現状、動向 b 障害児・障害者の健 康保持・増進 c 障害の種類と支援 d 自立支援と福祉の制 度 e 障害児・障害者の歯 科保健医療	1 障害者の福祉に関連 する法規を列挙し障 害の種類と支援を説 明できる。「障害者 基本法、知的障害者 福祉法、発達障害者 支援法、身体障害者 福祉法、改正精神保 険福祉法、児童福祉 法、障害者総合支援 法」	予習：あらかじめ 各項目につ いて自習し ておくこと
		2 ライフステー ジ別にみた保健・ 福祉の制度			2 障害者の共生社会に 向けた自立支援につ いて説明できる 3 自立支援医療につ いて説明できる	復習：講義プリン トを参照し て確認し、 理解を深め ること B-2-2)③⑤⑦⑧

<p style="text-align: center;">障害者 歯科 3</p>	<p>關田俊介</p>	<p>総論V 診察 3 障害者への対応</p> <p>6 全身疾患を有する者への対応</p> <p>総論VII 治療 1 治療の基礎</p>	<p>ア 障害の概念</p> <p>イ 障害の分類</p> <p>ウ 行動調整</p> <p>エ 診察の基本</p> <p>オ 歯科治療上留意すべき事項 カ 健康支援、患者管理</p> <p>ア 留意すべき疾患</p> <p>エ 全身管理に留意すべき疾患</p> <p>オ 障害者の治療</p>	<p>a 身体障害 b 知的障害 c 精神障害 d 発達障害</p> <p>f 精神疾患 g 神経・運動器疾患</p> <p>g 精神疾患 h 神経・運動器疾患</p>	<p>1 障害の定義を説明できる</p> <p>2 身体障害について説明できる。「脳性麻痺、感覚器障害」</p> <p>3 知的障害について説明できる。「Down症候群、他」</p> <p>4 精神障害について説明できる。「統合失調症、うつ病」</p> <p>5 発達障害について説明できる。「自閉スペクトラム症」</p> <p>6 神経・運動器疾患について説明できる。「重症筋無力症、筋ジストロフィー、筋委縮性側索硬化症、Parkinson病、てんかん、」</p>	<p>予習：あらかじめ各項目について自習しておくこと</p> <p>復習：講義プリントを参照して確認し、理解を深めること</p> <p>E-5-2)-①</p> <p>総論V 診察 2 小児への対応 オ 発達障害のある小児への対応 a 自閉スペクトラム症 b 注意欠如・多動症 c 限局性学習症</p>
<p style="text-align: center;">障害者 歯科 4</p>	<p>關田俊介</p>	<p>各論V 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者等に関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療</p> <p>2 治療の基礎</p> <p>8 障害者の歯科治療</p>	<p>エ 全身管理に留意すべき疾患</p> <p>オ 障害者の歯科治療</p> <p>ア 基本的対応</p> <p>イ 歯科治療上留意すべき事項</p> <p>ウ 口腔疾患の治療 エ 口腔保健指導</p>	<p>g 精神疾患 h 神経・運動器疾患</p> <p>a 一般的対応 b 行動調整</p> <p>a 環境への適応性 b 姿勢・異常反射 c 呼吸管理</p>	<p>1 行動調整法について列挙し、方法および方法が有効な障害者について説明できる</p> <p>2 レジネスについて説明できる</p> <p>3 刺激統制法について説明できる</p> <p>4 レスポデント条件付けについて説明できる。「系統的脱感作、TSD法」</p> <p>5 オペラント条件付けについて説明できる。「トークンエコミー：正の強化、レスポンスコスト：負の強化」</p> <p>6 タイムアウト、モデリング法を説明できる</p> <p>7 TEACCH、視覚支援等について列挙し説明できる</p> <p>8 反射抑制姿勢、筋弛緩法について説明できる</p> <p>9 薬物による行動調整を説明できる。</p>	<p>予習：あらかじめ各項目について自習しておくこと</p> <p>復習：講義プリントを参照して確認し、理解を深めること</p> <p>E-5-2)-②③④⑤⑥</p>

指導教員：關田俊介、花谷重守

参考書：スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科 第2版
日本障害者歯科学会編集 医歯薬出版株式会社 ¥9,500
ISBN：ISBN978-4-263-45801-3 C3047